

0歳から取り組む予防が、 親子の健康なお口と体をつくります

2020年6月にリニューアルオープンした、たまの森こども歯科。
「親子が快適に過ごせる場所になりたい」という院長の赤井亮子先生と
歯科衛生士の大嶋伽奈さんに、力を入れている親子での予防について
お話を聞きました。

0〜2歳の予防が全身の健康につながる

赤井先生 当院は「お口から子どもの体を健康に育てる。0歳から親子で予防する歯科医院」をコンセプトにしています。むし歯菌は基本的に親からうつり、その後発症してしまうお子さんが多いです。0〜2歳のときの親子の関わり方でむし歯のなりやすさが決まってくるので、特にその年齢の時期に力を入れているんです。

この年齢ですとお子さん本人は予防できません。でも、**お母さんが意識を高く持つてお子さんに感染しないようにすれば、むし歯になるのを予防できます。お子さんのその後の全身の健康に**

もつながっていくんです。

以上の理由から、初診時のカウンセリングでは必ず、むし歯が予防できる病気であることや親子感染について説明。どれくらいむし歯になりやすい環境なのかを明らかにしてリスク管理していくために、まずはお母さんにだ液検査を受けてもらいます。

すると、今まで自分のリスクがわからないままケアしていた方が何に取り組めばいいのか明確になるんです。実際に、赤ちゃんのときにお母さんからの感染が防げたお子さんは今でもむし歯がありません。予防できている結果を見せるとお母さんの意識もどんどん高くなるので、とてもうれしいですね。

まずお母さんとお父さん、

3歳になったらお子さんの検査

大嶋さん お子さんは3歳になったらだ液検査を行ないます。お母さんの菌が多いと3歳未満のお子さんも同じような口腔内をしていることが多いので、お母さんとお子さんそれぞれにリスクを下げる対策を提案しています。このように、**だ液検査は家族みんなで予防に取り組みきっかけになっているんです。**

先日私が担当したのは1歳の親子。お子さんのむし歯を予防するために、お母さんがだ液検査を受けました。今までむし歯の経験はなかったのですが、S M菌もL B菌もとても多かったです。本人も菌を見て「えっ！」とビックリ。今まで安心していた分、とてもショックを受けていました。こういった検査結果をきっかけにお話を聞くと、普段どおり生活をしているのかも見えてきます。

そして「親子で定期的に予防歯科に通う意味」についてお話し、ブラッシング

予防の楽しさや素晴らしさを発信したい

赤井先生 小さいお子さんを持つお母さんは、どうしても子どもが主体になつて自分は置いておきがちです。悪くなつてから治療することにならないよう、親子で予防する楽しさや素晴らしさを伝えていきます。

移転前から現在まで、予防を提供して8年半。患者さんとリスクを共有し、定期的に口腔内写真を撮って一緒に

確認したり、歯科衛生士さんからブラークコントロールの変化について逐一お話ししてきました。それらによって**患者さん自身が「自分できちんとケアすることが大事なんだ」と理解して行動してくれたので、「口腔内を通して全身の健康を守る」という成果が出ています。**

治療は削つて修復するなどすぐに結果がわかりますが、予防はそうじゃないですよ。ずっと継続してやってきたことが今の結果につながっているんだと思います。

歯医者さんのイメージが「怖い」「トラブルがあつたときに来るところ」という方はまだまだ多いと思います。この医院はそうではなく、歯医者さんっぽくない、リラックスできるような空間にしました。お子さんが裸足で歩けたり体幹トレーニングをするスペースもあります。親子で楽しく通える予防歯科として、皆さんの健康を守っていききたいですね。

「デントカルト」

親子が楽しく一緒に読める提案用ツールのプレゼントは、

マンスリー
インフォメーション **4** ページへ!

院長

赤井亮子先生

歯科衛生士

大嶋伽奈さん

たまの森こども歯科 (東京都)